

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第46号(2010 12 31)
事務局川西地区自主防災会

かがわ自主ぼうの一層の御発展を

香川県防災局長 丹 睦宏

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

共助の要としての県内各地の自主防災組織の能力向上、強化に、多大な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。本年も引き続き御支援いただきますようお願い申し上げます。

さて、昨年4月に防災局勤務になって9ヶ月が過ぎましたが、その間、本県では、台風の上陸もなく、大雨洪水警報の発令も1回のみ、大きな地震もなく自然災害が少ない年でした。しかし、平成20年、21年にはなかった林野火災が5件あり、そのうち1件は、数年ぶりに自衛隊の災害派遣を受けてようやく鎮火しました。火災シーズン入りや朝鮮半島の緊張状態など、のんびりと年明けうどんをいただくと言う気分ではられないようです。

ところで、全国的には、6月から7月にかけての梅雨期の大雨で、死者16名、行方不明者5名を出すなど各地で被害が出ておりますし、10月末に奄美大島を襲った台風13号は、住用村に総雨量821ミリ、最大時間雨量131ミリの大雨を降らせて、死者3名を出すなど、今年も自然災害で大きな被害を被っています。

災害時の優先課題は、何をおいても人の命を守ることです。現在、新知事のもと、香川県次期総合計画を策定中で、その中に重点的に取り組む分野として「安全・安心の確保」が掲げられ、南海地震対策、風水害対策として、耐震化の推進、高潮・津波対策の推進、災害予防事業の推進、災害に備えた体制整備の4つの柱について具体的な施策が、今後、決まっていくこととなります。県としては、市町や関係機関と連携しながらいろいろな施策に取り組んでまいります。また、災害時に大きな役割を担う自主防災組織に対する期待も大変大きいものがあります。

かがわ自主ぼう連絡協議会は結成4年となり、参加組織も増え、活動内容も充実してきており、県内の自主防災組織の活動カバー率や活動内容の向上にも中心的な役割

を果たしていただいております。我々も皆さんの活動をしっかりと応援していきたいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。

最後になりますが、かがわ自主ぼう連絡協議会のますますの御発展と会員、御家族の皆様の御活躍、御多幸を心からお祈りいたします。



9/1 香川県総合防災訓練

「地域とともに、子どもとともに」

～知識と心・実践力を育てる～

三豊市立上高野小学校 校長 山下 昌茂

今から25年後……。その前後に、建物が崩壊するような大きな地震が、高い確率で起こると言われています。

25年後というと、今の小学生の子どもたちが35歳前後の年。結婚をして、家庭をもち、小学校に通うくらいの子どもがいる環境でしょうか。おそらく両親は60歳を超え、家族では中心となり、責任ある立場に。また、地域でも働き手の中心となって生活をしている一番逞しく、元気な時期となっている頃でしょう。



そんな状況に置かれる子どもたちだからこそ、学校として、今指導しておかなければならないことが2つあると考えます。



1つは、地震による被害を最小限に減らしていく知識です。自分を含め、家族の安全・命を守る知恵です。2つ目は、被害にあった近所や地域の人までも救おうとする、他者を思う心の高まり（ボランティア精神の向上）と実践力です。現実問題として、消防・警察・自衛隊等々、公共の組織は私たち個人を助けに来ることはできないからです。



このような知識と心・実践力、特に、2つ目の心・実践力については、大人になって育てることは難しく、子どもの頃に培わなければならない大切な資質・能力と考えています。そのために学校では、修学旅行の目的地に「人と防災未来センター」を位置付けるとともに、毎年1回、地震に対する避難訓練を実施してきました。しかし、学校単独の訓練では、現実感や感性を伴わない小規模で形式的なものしかできません。

そんな時、上高野の地域福祉推進委員会（中嶋会長）からの声かけをいただき、そのお陰で、学校・



地域、それぞれの課題を補い合え、さらには、それぞれのよさを重ね合わせた今回の合同防災訓練が実現する運びとなりました。地域では既に、地域福祉推進委員会を母体とした自主防災会による「歩いて、みよう会」という企画が立ち上がっており、毎年2回に渡っての熱心な防災訓練が実施されてきていました。子どもを育てるという観点から見ると、休日実施ということで、子どもの参加が難しいものとなっていたという自主防災会の課題も同時に解決でき、願いも達成できる企画となったのです。さらに、広域・地域の消防団、遠く、内閣総理大臣賞を受賞された丸亀市の川西自主防災会の全面的な御協力も得て、価値ある有意義な行事となりました。



地元自主防災会からの声かけ、さらには、関係機関の幅広い支援がなければ、決して実現できない大規模な学校行事となりました。本当に有り難く思っています。



人の記憶は、感情を伴う体験によって成立すると言われています。そういう意味から見れば、長時間熱心に指導してくれた自主防災会の方々との関わり、同じグループで協力して同じ訓練をした自治会の方々との思いの共有。そして、初めての体験となる興味深い8種の訓練内容は、子ども一人ひとりの感情を大きく揺さぶり、深く記憶に残る体験となったことと信じています。



後日、「大人になった時、自分の家族を守ろうとする気持ちが強くなりました。」「今回の訓練は地域の人のお陰で、地震に対する考え方が変わりました。」「自分の命は大切ですが、家族・地域皆の命も同じように大切にしたいと感じました。」・・・等の子どもの声を聞き、大変嬉しく思いました。

地域との連携によって、防災に対する知識や心・実践力が高まった子ども。この子どもたちが、今後は地域全体の知識や心・実践力を高めていくことを期待しています。

〈地域だより〉 坂出市王越町 ～後篇～

坂出市王越町木沢自主防会長 北山 定男

〈震災・減災の為の公共機関と企業との協定に関する取り決めに参考〉

被災後の処置につき、単独の自主防としては、困難だと思いましたが、横浜の場合を参考に。

- 避難所の設置・運営についての協定書
- 災害時における応急仮設住宅建設についての協定書
- 協定先、社団法人神奈川県建設協会
社団法人プレハブ建築協会

〈保健衛生、防疫・遺体の処理等に関する活動〉

- 防疫用備品配置状況一覧表
- 第二種感染症指定医療機関一覧表

〈飲料水、食料及び、生活必需品・物資等の調達・供給活動〉

- 災害時における応急給水及び復旧工事の協力に関する協定書
- 指定提携先、神奈川県管工、工事協同組合

〈応急物資の取り扱いに関する協定書〉

- 応急『食料』の取り扱いに関する協定書
- 協定連絡先、農林水産省横浜食料事務所

〈都道府県・市・災害時、相互応援に関する協定書〉

- 協定連絡先⇒埼玉県・千葉県・東京都・横浜市・川崎市・千葉市

〈震災時、相互応援に関する協定書〉

- 関東地方知事会、関係都県⇔東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・静岡・長野

〈全国、都道府県における災害時の広域応援に関する協定書など〉

被災後の対応に関して協定書は必用ですが、単独『自主防災会』としては、企業と『緊急対応指示力』等は困難であり、被災が広範囲になればなるほど対応・資材供給等に波紋が広がる懸念が有り、最終的に自分たちの町は、自分たちで守る事に尽きると考えます。ただし、資金面に問題がある中、避難に対する安全から衛生面迄の過程を考慮し、如何に対処出来るかを考えることが大きな課題として残ります。

〈河田恵昭先生のシンポジウムへ参加〉

平成 18 年 7 月『香川県防災対策基本法』が制定されました。

その年、12 月 21 日河田恵昭先生のシンポジウム参加し、「四国で南海地震が発生した場合、1,900 カ所の集落が孤立する。そして、土佐湾沖を東西に横たわる深さ 4,000 m に達するトラフに沿って、発生する危険性が高い。プレート境界地震で高知桂浜の被害は甚大で約 10 分後に津波が押し寄せる可能性がある。」という内容の講義を受けました。

<講義後の、パネルディスカッションの内容として>

印象に残った言葉は、「死者の発言は無い…すべてが終わる。」

- 無くならない為に何をするか、出来るか…。
- 『プラン・チェック・アクション』⇒防災計画の策定⇒介護の研修など…

<香川県防災局指導官乃田俊信氏の講義から抜粋>

平成19年2月から、20年3月まで災害ボランティア13時間の養成講座受講

- 『知る（知識）』 防災の第一報⇒災害の真相を知り、備え方を知る。
- 『意識する（認識）』 対策を実行に移す原動力
- 『“まさか”から“もしかしたら”』 意識改革⇒必要性・重要性を認識
- 『実行する（行動）』 最悪に備える原則

<防災への取組>

“座学”は、独りで出来るが、“防災訓練”は、独りで出来ない。

自主防災組織結成後の独自訓練は『困難』。

救命救急訓練は坂出消防本部の指導を仰ぎ年1回、3年間お世話になりました。しかし、問題は『人』が集まらないことでした。昨年は、乃生地区へも参加を要請し『救命訓練』に総勢20名が参加し指導を受けることが出来ました。今年は、香川県の総合防災訓練、南海地震発生（震度6弱）推定震度分布図に基づく、県総合訓練へ参加をいたしました。木沢地区からの参加者は3名でした。

王越としての合同訓練は、平成20年11月坂出市を主催として実施。

<王越としての防災・高齢化社会にあって取り組むべき目標>

『チャレンジ』は『変革』。

- 社会福祉（地区社協会長兼務）として18団体との「輪」の活用と構築。
- 挨拶運動の推進⇒即ち、気付きの発見そして繋ぎ・繋がる。
- 権利擁護の推進⇒高齢化社会の進行とともに『核家族化』と判断能力低下の気付き。
- 防災・災害支援活動の推進と、情報の伝達及び伝達手段の構築。

災害の規模が大きければ大きいほど『公的機関』の支援機能は制限されます。

その為にも、「自分の命は自分で守り、自分たちの町は皆で守る」事で減災に繋がり、「お互いに命を支え、生活から笑顔を奪う事無く、気付いた事から全住民が発信しあえる」そんな王越地区を目指す為にも、早い対応と尊い命を守るための名簿「要支援者名簿」づくりは最重要課題であると考え、民生委員・婦人会の協力の下、取り組みたい所存でございます。（以上、3点を掲げ一歩・一歩、歩む所存です。）目に見えない災害対策こそ『平常時の備え』が大切ではなからうかと思えます。



<王越小学校での取組み>



9月12日は王越小学校（生徒19名）イキイキウォーク防災探検隊の実施日です。

一世紀以上に渡り、卒業生を輩出してきた王越小学校は、少子化の波に乗り今期限りで統廃合校となります。元気な子供の通学姿が見えなくなることに寂しさを感じておりました。

その折、小学校高学年において防災の教育を取り入れる事を知り、市総務部長の御理解で、

教育長と「防災探検隊」のお話させて頂き、快諾を頂きました。

6月王越小学校の校長先生と防災について『ガイドライン』の話をさせて頂き準備をスタート。記念に残る企画を考え、武智氏に相談した結果、香川大学・防災士・PTA・地元の協力を賜り、『乃生地区』の「防災探検隊」を実施することとなりました。

マップ作成に当たり、水・木は毎朝30分早く登校し全員参加で取り組み、校長先生を始め、諸先生方の苦勞と努力で、見事な防災マップの作成と文化際における見事な発表ができました。深く感謝し、感銘を受けました。

<訓練の成果>

今年3月7日グループ11名で別府温泉に旅をした時の体験談。

ホテル鬼なし温泉での出来事です。

午後10時30分過ぎ、同じ温泉場で人が倒れたと騒いでおり、振り返ると痙攣が止まり、側に行くと『血』の気無く倒れた人が。すぐに、救急車の手配を叫び、心肺蘇生に取り掛かりました。声を出し30回×5以上のマッサージを続けた結果、倒れた人が蘇生してくれました。この時はじめて、これまでの訓練が実り、初めて人を救ったという自信が生まれました。その後、救命隊に繋ぎ一安心、一糸まとわぬ恥ずかしさも忘れ、助けた人の顔も忘れませんでした今日です。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別なご厚情を賜り、まことに有難く厚くお礼申し上げます。

又、各号に原稿をお寄せいただきました皆様、重ねてお礼申し上げます。

本年も、「防災・減災の輪」がますます広がりますよう精進してまいりますので、

引き続き一層のご支援を賜りますよう、事務局一同心よりお願い申し上げます。

